

平成 30 年 9 月 24 日

女子バスケットボールワールドカップ 2018 特集号

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

やりました！！ アカツキファイブ女子、予選リーグ1勝です！！

ベルギー戦です。オーバータイムを制しました！！ 77対75でした。

LIVEのゲームを観て、この特集号を書いています。

いやあ、凄いゲームでした。ご覧になった方も多かったと思いますが、日本女子代表の底力を見た感じがしました。第3ピリオド終了時に57対50で日本がリードするのですが、クォーター制の難しいところで流れが切られ、4ピリに入り徐々にベルギーに詰め寄られます。11番、12番、55番の長身者の中での合わせ、5番の3P、さらに11番は195cmの長身ながら、外角のシュートを難なく決めます。逆転された日本（65対68）ですが、エプリン選手の3Pシュートで同点に追いつきます。

そのままオーバータイムに突入します。

先手をとったのはベルギーでした。5番の3Pシュートが決まりリードします。日本はドライブからのキックアウトで外につなぎ、宮澤選手が立て続けに2本の3Pシュートを沈めます。そしてファウルを得た、赤穂ひまわり選手のフリースローで逆転し、見事勝利を収めます。

手に汗握るゲームでした。頭の中が整理されていませんが、感想です。

まず、大事な場面でのエプリンの3Pシュート（4ピリの最後に窮地を救った）、オーバータイムでの宮澤の2本の3Pシュート、終始安定して得点を重ねたキャプテン高田（26点は両チーム最多）がキープレイヤーとなりました。もちろん、他の9人も自分の役割（ディフェンスも含めて）をしっかりと果たした結果の勝利だったことは、言うまでもありません。

課題です。前日のスペイン戦もそうですが、シュートの確率を上げる必要があります。

	2 P	3 P
スペイン戦	51%	33%
ベルギー戦	55%	31%

一目瞭然ですが、3Pシュートの確率は何とか40%以上にしたいです。宮澤、エプリン、藤高以外の確率をもっと上げなければなりません。期待したいのは、オコエ、高田です。安定した3Pシュートなしに、日本がメダル圏内に入ることは至難の業です。また、2Pシュートの確率も60%を目指したいです。ファーストシュートの確率を上げなければ、相手の高さが生きてしまいます。

シュートを外す原因として、ベルギー戦を観て感じたことですが、ドライブからのシュート、ジャンプシュートのどちらにも共通しているのは、どうしても相手の高さを意識してしまい、**ボールリリースが早くなることです**。ディフェンスを掻い潜ってシュートに行く場合、リリースはしっかり踏みきってから行うべきです。シュートカットを嫌がらないことです。もしシュートカットされた時は、すぐさまルーズボールを追えばよいのです。割り切ることだと思うのです。ディフェンスを怖がらず嫌がらず、すれをつくったなら、しっかり踏み切ってからリリースするべきです。

3Pシュートは踏ん切りよく「スパッ」と打つことがすべてです。宮澤を見ている、入る時は踏ん切りよく「スパッ」とリリースしています。 それでは、プエルトリコ戦の勝利を祈ることにします。